

第1学年2組 外国語科学習指導案

1 単元名 「Unit11 思い出の一年」

2 単元の構成

(1) 生徒の姿

本学級の生徒（男子18名、女子16名）は、音読活動やコミュニケーション活動において、ペアの相手と積極的に取り組むことができている。しかし、個人での発表や発問への返答は、自分から発言できていない生徒や人前で発表することが恥ずかしいと感じている消極的な生徒もいる。書く活動においては、単語の綴りが定着しておらず、苦手意識を感じている生徒が少なくない。4技能（読む・書く・聞く・話す）に関するアンケート（複数回答可）では、「英語でもっとできるようになりたいことは何ですか。」という質問に対して、「書く」が17名、「話す（やりとり）」が15名と他の技能より多かった。また、speaking testにおいて、ほとんどの生徒が教科書の内容を暗記し、リテリングすることができるのに対し、その場で質問された内容に即興で答えることができる生徒は少ない。このことから、即興での表現の能力に課題があり、話したり書いたりする力を高めたいと感じている生徒が多いことがわかる。準備した原稿をしっかりと練習し、話すだけでなく、必要な表現や語彙をその場で判断し、即興でやりとりできる力を育てたい。

(2) 取り上げる教材

本題材は、日常生活や中学校生活を振り返り、体験したことや感じたことについて自己表現することができる題材である。目標言語材料は、動詞の過去形の肯定文・否定文・疑問文である。過去形の中にも、規則動詞(played, watched等)と不規則動詞(ate, went等)を用いた文を取り扱う。これまでに生徒は、現在形や現在進行形で表現活動を行ってきた。本単元で学ぶ動詞の過去形を用いることで、過去のことについて述べるができるため、週末の出来事を話したり、日記を書いたりするなど、表現の幅が広がる。

また、教科書の登場人物が一年間の思い出を文集にまとめた場面を取り上げる。生徒自身が文集を書く際には、自身の成長や仲間との思い出を振り返ることができる教材である。

(3) 学習の流れ（11時間）

- 単元の見通しをもつ。
 - ALTの思い出とその内容に対するJTEの質問を聞く。
 - 本単元で用いる重要語句を確認する。
- 動詞の過去形の肯定文・否定文・疑問文を学習する。
 - 規則動詞を用いて、3行日記を書く。
 - I played tennis yesterday.
 - 不規則動詞を用いて、冬休みにしたことを表現する。
 - I went to Tokyo this winter.
 - 疑問文を用いて、相手が冬に体験したことを尋ねたり、答えたりする。
 - Did you travel this winter?
- 教科書本文を理解する。
 - ベーカーク先生や光太の文集を読み、内容や文章の構造を理解する。
 - 疑問文が用いられている本文の意味を考えながら音読する。
- 文集を書き、グループで質問し合う。
 - 「学校生活の思い出」をまとまりのある英文で書く。
 - グループで交流し、質問し合う。

(4) 指導のポイント

単元のゴール像を明確にするために、モデル文を提示する。単元末に英語で文集を書き、グループで交流することを伝える。

新出言語材料においては、様々な動詞を用いながら、即興で伝え合う活動を毎時間設定する。また、不規則動詞については、形や意味の定着を図るために、帯でのペア活動を設定する。疑問文・否定文の学習をする際は、動詞が原形に戻るルールを理解させるために、単語カードを用いて視覚的な補助を行う。

教科書本文を活用しながら、英語の文集に触れ、単元末のライティング活動で活用できる英文を探し、音読活動を徹底して行う。

単元末には、「学校生活の思い出」をテーマに、過去形を用いて表現し、グループ内で発表する。発表の際は質問を考えながら聞くなど、これまでの聞く活動をさらに発展させたい。

(5) 目標 (㉞知識・技能 ㉟思考・判断・表現 ㊱主体的に学習に取り組む態度)

- ア 動詞の過去形を用いた肯定文・疑問文・否定文についての知識を身に付け、場面や状況に応じて適切に運用することができる。
- イ 過去のことについて、音声に気を付けながら話したり、過去形の形に気を付けながら書くことができる。
- ウ 間違いに恐れず、過去のことについて積極的に話したり書いたりすることができる。

3 本時

- (1) 日時 平成31年2月21日(木) 5校時
 (2) 場所 1年2組 1年2組教室
 (3) 主眼 冬休みに行ったことについて、情報を整理し、動詞の過去形(不規則動詞)を用いて即興で話す(やりとり)ことができる。
 (4) 理解確認・理解深化段階での協同学習の工夫

- ・理解確認段階では、過去形の用法を理解するために、ペアで対話文を書く活動を設定する。
- ・理解深化段階では、自分や相手が過去形を用いて話すことができたかを確認するために、会話の流れを書き起こす活動をペアで行う。

(5) 展開

段階	学習活動・内容	○指導のねらい・手立て◇評価規準(方法)	形態	配時
説明	1. Warm-upを行う。 2. ALTとJTEの対話を聞く。 3. 新出言語材料の説明を聞く。 (1) 現在形と過去形の違いを認識する。 ・ I eat toast every day. ・ I ate toast yesterday. (2) 過去形の不規則変化を知る。 ・ saw ・ ate ・ drank ・ went	○冬休みのことについて話すことに興味・関心を持ち、過去形の語形変化を理解することができるようにする。 ・ 即興でのやり取りにつなげられるよう、動詞を見て即座に答える活動を設ける。 ・ 本時の見通しをもって学習できるようにALTとJTEのモデル対話を見せる。 ・ 深化課題での自己表現につながる動詞を選択し、提示する。	一斉	15
理解確認	4. 口頭練習し、語形変化を確認する。 (1) パターンプラクティスで音声に慣れる。 (2) KotaとAlexの対話文を、メモをもとに完成させる。 Alex: I went to Okinawa with my friends. I ate hamburgers. I drank coke.	○過去形の音声に慣れ、自己表現活動(理解深化)につなげられるようにする。 ・ 身近な話題を話すことにつなげられるように、生徒になじみのある単語を用いてパターンプラクティス活動を設定する。 ・ 英文の内容がイメージできるように、絵や写真を用いて例文を言う練習をする場を設ける。	一斉 個 ↓ ペア	15
理解深化	5. 不規則動詞を用いて即興で自己表現活動を行う。 (1) 表にメモを取る。 行った場所 食べたもの その他 ゆめタウン アイス played games (2) メモをもとに、ペアでチャットをする。 (3) 話したことを書き起こす。 A: How was your winter vacation? B: I went to Youme town with my friend. I ate ice cream. I played games. How about you?	○情報を整理しながら対話を行う場面を認識し、即興で話す(やりとり)することができるようにする。 ・ 対話を行う目的を意識させるために「冬休み明けに友人と話す」場面を設定する。 ・ 自然な会話に近づくように、聞き役の人はいづちをうちながら聞くよう促す。 ・ 自分が話した内容を整理するために、話したことを書き起こす活動を設定する。 ◇動詞の過去形について正しく理解し、動詞の形に気を付けながら、話すことができている。(様相観察・ワークシート)	個 ↓ ペア	15
自己評価	6. 本時のまとめを行う。 (1) 自己評価をする。 ・ 初めて使った表現や、新しく気づいたことを書く。	○自己表現活動を通して実践的に活用できたかどうかを把握し、次回の自己表現につなげることができるようにする。 ・ 本時で分かったこと、分からなかったことを確認し、自分たちが話した動詞の過去形を把握させる。	個	5